

耳石解析による平成 29 年生まれアユのふ化日組成

久米弘人

1. 目的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ曳調査で採捕した平成 29 年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴の把握を試みた。

2. 方法

耳石解析に用いたヒウオは、平成 29 年 9 月 21 日から 12 月 4 日にかけて船木崎から当场にかけての 4 水域（図 1 の実線部分）で、ヒウオ曳調査と同様の手法で採捕した。曳網水深は各水域 8m と中央付近の 2 水域では水深 8m に加え、水深 16m でも実施した。採捕したヒウオのうち 473 個体から耳石を摘出した。摘出した各耳石について、耳石解析装置（ARP/W+RI：ラトックシステムエンジニアリング社製）を用いて日輪数（図 2）を計数することでふ化日を求め、ふ化日組成図を作成した。

これのアユのふ化日のピークは 9 月下旬から 10 月上旬となった（図 3）。しかし、平成 29 年は天然産卵が 2.7 億粒と平年の 2.2% と極端に少なかったこと、安曇川人工河川からの流下したふ化仔魚 38 億尾のうち 34 億尾が 9 月中の流下であることを考慮すると、今回ヒウオ曳調査で採捕されたヒウオのふ化日組成図と天然産卵および人工河川からの流下状況は、ふ化時期はほぼ一致するものの、ふ化日のピークは合わなかった。

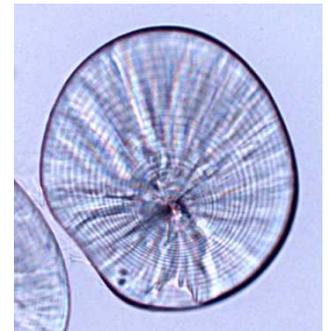


図 1 サンプルング水域図

図 2 アユ耳石顕微鏡写真

3. 結果

ヒウオ曳調査で採捕された平成 29 年生まれ

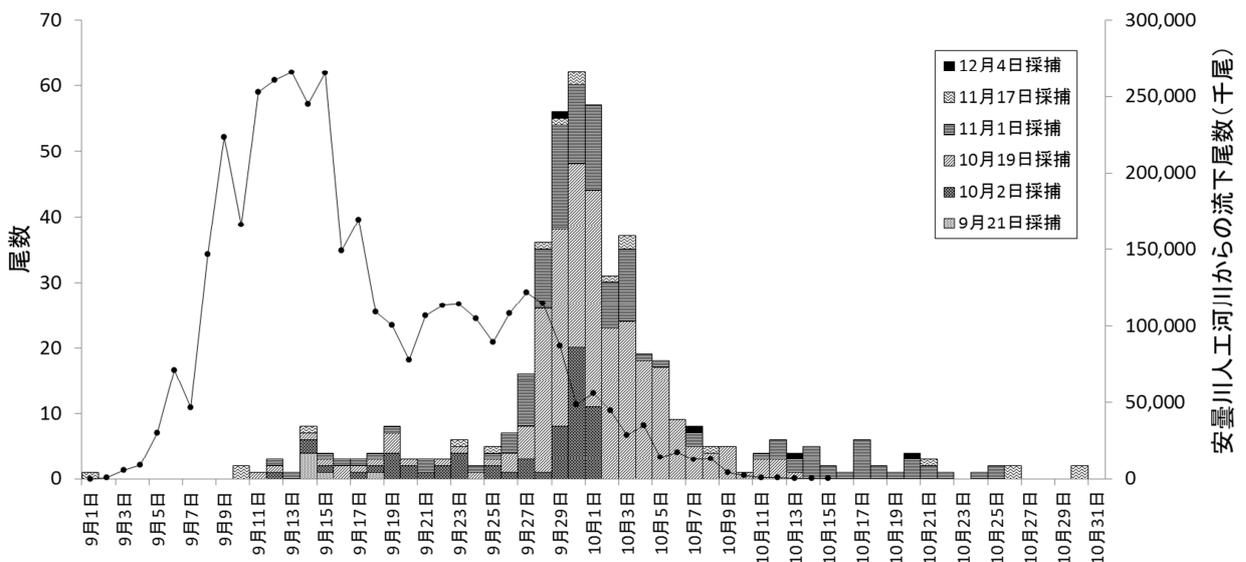


図 3 平成 29 年生まれアユのふ化日組成図